

## the spirit of the times

天狗党が往く～言霊（ことだま）～

第 45 代理事長 故 佐藤 賢司

全国会員大会プロジェクト会議が、新人間社会室の政策の流れを取り入れながら、作成を続ける、ビジョンの策定が、最終局面を迎えようとしています。次年度会頭所信の中にも、明治維新を例に取った、変革期における改革が謳われていますが、先人たちに学び未来に活かす型のアプローチは、水戸 JC では、比較的早い段階で確認ができていました。様々な要素を想定した、フローチャートが出来上がり、ニュアンスが理解できるようになった段階で、言葉で表現することの難しさを痛感しながらの挑戦が続いています。

変革の能動者であり続けた、水戸の歴史から学ぶものは多く、理念の裏づけとして大いに活用させていただくところですが、社会のルール改革にまで踏み込むには、その前提として、日本民族が連綿として受け継いできた生きざまを整理し、理解することが必要です。

日本人が当たり前のこととして無意識にしていることが、外国の人たちには、理解出来ない、不思議なことに思えてしまうのは、なぜでしょう。さらに、説明を求められたときに、うまく説明出来ない我々日本人は、特異な民族なのでしょう。世界中の様々な民族が、宗教を意識しながら、暮らしている中で、無神論者が多いといわれる日本人は、共通の価値観や観念を何に依存しているのでしょうか。私は、日本民族の、そのルーツに依存していると思います。そのルーツとは、神代の昔という古代から信仰された、神道にあると思います。ところが神道は、火の神、地の神、ヤマトタケル、菅原道真、平将門、乃木大将に、二宮尊徳に蛇だ龍だ性器だと面白がってるんじゃないかというぐらい数えきれない神様がいて、生きてるうちに自分までまつっちゃう方もいたり、紙幣にされちゃったりと、もうやりたい放題で、加えて、再生したり、崇ったりと、この複雑にして、難解な宗教を外国の人が理解することは、たとえ難解だと言われる日本語が操れても不可能だと思います。加えて、「言挙げぬ（コトアゲヌ）」と言って、現代語にしなかったり、聖書やコーランにあたる教典もない。何と日本民族を信頼し、気高くたてまつった宗教ではないでしょうか。

この鍋料理のような、雑多な要素を持つ宗教の背景には、単一人種に近いがゆえの複雑な共通項や、農耕民族の村社会があり、豊かな海に囲まれ、澄んだ水や、四季の変化があります。つまり豊かな環境での平均的な価値観を尊び、大らかで雑ぱくでありながらルールから外れたり必要以上に我を通そうとするものを嫌う民族性に潜んでいます。しかし、個性化が尊ばれ、個人主義が台頭する世の中になり、修身や道徳が曖昧となるにつれ、平

均的な価値観が揺らいできています。新人間社会の創造には、少なからず宗教的概念が加味されていますが、日本人が無意識のうちに手放そうとしている価値観を言葉にして伝承していかなければ、真に目指そうとしている社会の形成に不具合がでるのではないのでしょうか。

神道を語るときかかせない言霊がありますが、日本人は、古来より、言葉に対する崇敬感や言葉の持つ呪力を信じてきました。口をついて出た霊力を持つ言葉の重みや責任を自覚しなければいけないということです。我々は、次の世代に向け、言霊を重んじ積極的に言葉を発し、同時に責任も持つことで、日本民族の迷走を止められないのでしょうか。